

NIMBY?、YIMBY?

千葉大学大学院工学研究科都市環境システムコース准教授
一般社団法人 洗楓座 代表理事

佐藤建吉

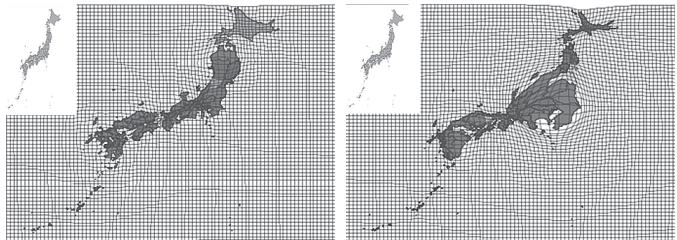
「Not In My Backyard(略して肯定・歓迎されるもてNIMBY)」は、あの対象が必要なのは分るが、それが近くにはあってほしくない、と考える人間の性(さが)を言い表している。その対象の例を挙げれば、大きなものは原子力発電所や放射能・核施設、軍事施設などがあり、次には火葬場やごみ施設、また歓楽街やカラオケ店などもそうである。

それには、世論の力がある。やはり煙の上がる火葬場は生活空間には望まれず、普及段階はありえないだろう。それでも、火葬場や墓地の近くに家を求める場合は、もはやNIMBYとは言えない。お彼岸の時の線香の匂いは心地よいものもある。終末施設に事例を取り上げると、高齢化の進んだ現在、駅前の便利さゆえに葬儀場がメモリアルホールと呼ばれる多数つくられている。もはや便利な施設として認知されているようでもある。原子力発電所は、NIMBYだろうか、YIMBYだろうか。この選択については、交付金や補償金などによる地方経済支援と引き換えに、NIMBYをYINBYにする多数工作が行われてきた。これには、2011年の東北大地震で露呈したが、「安全神話」の読み聞かせも、効能した。いま、その神話を別の教義に替え委ねてYIMBYを作り出すとする動きがあることに危惧している。

Yに転換可能なのは、「自然」という言葉を冠したエネルギー、すなわち自然エネルギーである。その性(さが)として特定可能な要件は、「再生可能」という特質である。さらに、その土壌柄に合致した種類の自然エネルギー源が、必ずMy Backyardにはあるのである。太陽光や太陽熱は、都市の上空間に潜在している。地熱源もそこにはある。風力もビル風を利用する工夫で獲得できる。

ゆえに、自然エネルギーは豊かな自然環境に満たされたところにしかない、とは言えない。むしろ、都市においてもエネルギーを地産地消でできるので、YIMBYとすることができるともいえる。自然エネルギーはその源の種類が多いので、ハイブリッド化した利用形態や、時間や気象による変動や過不足への対応により進めたい。昼間の太陽光と太陽熱の同時利用、風力やバイオマスの利用による補足や補完、水や地熱が適した地域もある。それらを組み合わせた利用が出来るのである。

「Not In My Backyard(略して肯定・歓迎されるもてNIMBY)」は、あの対象が必要なのは分るが、それが近くにはあってほしくない、と考える人間の性(さが)を言い表している。その対象の例を挙げれば、大きなものは原子力発電所や放射能・核施設、軍事施設などがあり、次には火葬場やごみ施設、また歓楽街やカラオケ店などもそうである。それには、世論の力がある。やはり煙の上がる火葬場は生活空間には望まれず、普及段階はありえないだろう。それでも、火葬場や墓地の近くに家を求める場合は、もはやNIMBYとは言えない。お彼岸の時の線香の匂いは心地よいものもある。終末施設に事例を取り上げると、高齢化の進んだ現在、駅前の便利さゆえに葬儀場がメモリアルホールと呼ばれる多数つくられている。もはや便利な施設として認知されているようでもある。原子力発電所は、NIMBYだろうか、YIMBYだろうか。この選択については、交付金や補償金などによる地方経済支援と引き換えに、NIMBYをYINBYにする多数工作が行われてきた。これには、2011年の東北大地震で露呈したが、「安全神話」の読み聞かせも、効能した。いま、その神話を別の教義に替え委ねてYIMBYを作り出すとする動きがあることに危惧している。



風力発電(左)とバイオマス発電(右)のカルトグラム表示

NIMBYをYINBY

自然エネルギーを利